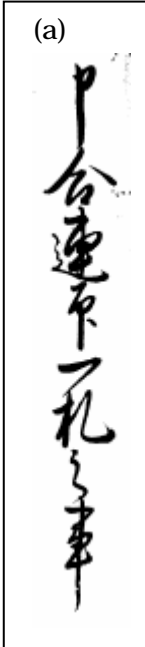


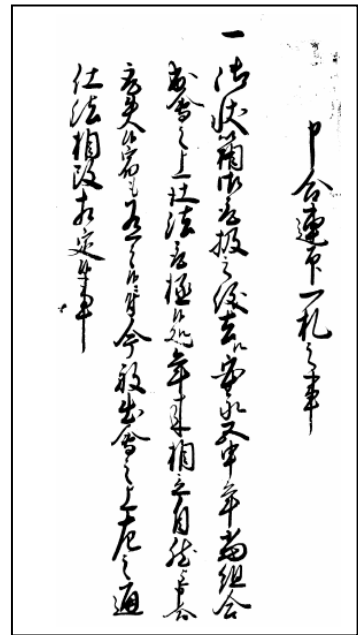
字の雰囲気は同じ

今回から新しい文書になります(歴史文化情報センター請求番号は 01018-8-58)。



(a)

(a)がタイトルですが、**申**が「中」か「申」。
合は「合」ですから、「**申**合」で「申合」です。**連**は「連」。次の**印**は第20回にも出てきた「印」です。次の2文字は、筆が流れている部分を取り除けば簡単に「**一**札」とわかります。最後の**事**は「事」なので、その前は「之」でしょう。まとめると、「申合連印一札之事」となります。この文書は、いくつかの約束事を申し合わせて連名(連印)で署名した文書のようにです。



(b)の最初の**御**は、これまでは**御**という崩しで出てきた「御」です。今

回から少しレベルを上げましたので、少し崩しが強くなりました。**御**は旁の「犬」または「丈」が読み取れると思いますので、「状」だとわかりそうです。次の**箱**は上の**竹**は読めなくても、下の**相**は「相」と読めます。したがって、「箱」くらいしか思いつく字がなく、**竹**も「竹冠」なら矛盾がなさそうです。また、「御状箱」(御書状が入っている箱)で意味も通ります。**御**はまた崩しがきつくなりましたが、「御」です。先ほどの**御**と何となく通じるものがあるのを感じ取ってください。次の**取**は「取」という字で、頻出します。ここで覚えておくと良いと思います。次は「扱」で、これは簡単。次の**之**は「之」でしょう。最後の**儀**は、第8回でも出てきましたが、「儀」です。今回の方が、崩しがきつくなっていますが、「イ」



の部分と、**取**の最後の方、**取**という感じはよく似ています。(b)は「御状箱御取扱之儀」となります。